

## 学 力 向 上 だ よ り

氷見市教育総合センター

## 令和のとやま型教育推進事業

## 第2回教育実践研究会「湖南小、十三中」の開催

11月8日(金)

湖南小 公開授業 5年 学級活動 議題名「湖南あいさつパワーアップ大作戦！5年生ができることを考えよう」 授業者 中 郁哉 教諭

## 【本時の学習】(2/3時)

目標：話し合い活動を通して、学級の一員としての自覚をもち、一人一人が学校のためにできることを考えることができる。

## 【研究の視点を基にした授業の工夫】

- ・議題について自分の考えを学級会カードに記入し、教師が事前に朱書きや助言で価値付けることで、自信をもって話し合いができるようにする。
- ・Formsを用いて振り返りを行い、円グラフで視覚化し、全体で共有する。話し合いの評価をするとともに、次回の課題を見付けられるようにする。



〈5年学級活動 授業の様子〉

十三中 公開授業 2年 数学科 単元名「平行と合同」

授業者 T1 田中 裕子 教諭  
T2 瀬戸いずみ 教諭

## 【本時の学習】(5/15時)

目標：多角形の内角の和を求める式を見だし、それを説明したり、利用したりすることができる。

## 【研究の視点を基にした授業の工夫】

- ・既習事項とのつながりを大切にしたい課題づくりをしたり、Scratchを用いて、自分の考えた式を瞬時に検証できるように作図したりする。
- ・課題の解決までの見通しをもたせ、自己選択しながら活動できるようにしたり、学習形態を工夫し、自分の考えを仲間と相談できる場を設けたりする。



〈2年数学科 授業の様子〉

講演 講師 岐阜聖徳学園大学教育学部 教授 玉置 崇 先生  
演題 「個別最適な学びと協働的な学びを具現化するために」

講演では、「次期学習指導要領の改訂」に向けた情報とともに、個別最適な学びと協働的な学びの具現化について話をしていただき、次のことについて学びました。(以下、概要)

「主体的・対話的で深い学び」の実現のために…個別最適な学びと協働的な学びを充実させることが大切である。

「個別最適な学び」とは…子供自身がどのように学びを進めていくかを決めていくこと【自ら学習を調整】である。→1人1台端末の活用が有効となってくる。

「協働的な学び」とは…学びには、一人ではできず、一人ではできないことがある。また、仲間とすれば、支援があればできることがある。自己と多様な他者が関わり、相互啓発しながら学び合っていくことである。

「学び合う学習」の指導のポイント…①関わり合う機会を増やす。(考えを深めるために、基本はペア、グループは4人まで) ②つながりをつくる。(考えをつなぐ、聴き返す、困っている仲間へ寄り添い、孤立させない) ③聴き合う関係づくりをする。(よく聴き合い、知恵を出し合う。つながりやすい座席配置にする) ④よくしゃべる教師から、よく聴く教師となる。(表情豊かに耳を傾ける。よい聴き方を褒めて、具体的に聴き方を示す)

「主体的な子供を育てるために」…①子供を主体的にさせる画期的な方法はない。 ②教師が心底から「子供を主体的にさせたい」と思っているかどうかにかかっている。 ③授業中、教師の指導の言葉にその心境が表れる。指導の言葉から教師の思いが読み取れる。 ④教師の思いを子供に分かりやすく伝えているか。 ⑤(学校全体で)教師が願っている姿を子供に伝えているか。



〈玉置先生による講演〉

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査（氷見市の結果から）

## 「課題のみられた問題と指導のポイント」

学力向上推進委員会

小学校「国語」 問題番号1三 <正答率が低い問題>

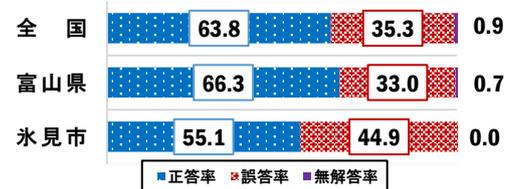
問題形式：選択式

学習指導要領における内容：5・6学年 A話すこと・聞くことア

評価の観点：思考・判断・表現

**【出題の趣旨】** 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。

- ・正答率が55.1%で、全問題中3番目に正答率が低い。全国平均と比べると8.7ポイントも低く、最も差が大きい。
- ・誤答については、自分の学校に関する情報を整理していること、複数の情報をまとめて伝えていることのどちらかだけを捉えていた児童が38.7%である。



### 学習指導上の留意点

- ◇ 目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討することができるようにする。

伝え合う内容を検討する際には、聞いたり話し合ったりすることを具体的に考え、関係する材料を整理しておくことや、特別活動等、他教科等との関連を図ることが大切である。

### 指導のポイント

- ・自分が伝えたいことと聞き手の求めていることに応じて、情報を整理するよう指導する。
- ・目的や意図に応じて聞き手が知りたいことを想定し、内容を検討することができたかという視点をもたせ、学習活動を振り返り、情報を整理することのよさを考えることができるようにする。
- ・振り返りの場面においては、学習過程に沿って生まれた様々な学びや気づきを大切にし、共有することで理解を深めるようにする。

小学校「算数」 問題番号4(3) <正答率が最も低い問題>

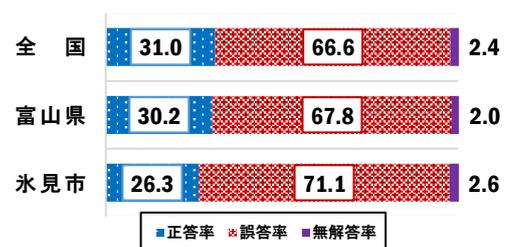
問題形式：記述式

学習指導要領における内容：5学年 C変化と関係(2)ア(ア)イ(ア)

評価の観点：思考・判断・表現

**【出題の趣旨】** 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。

- ・正答率は26.3%で、全問題中最も低く、県平均より3.9ポイント、全国平均より4.7ポイント低い。
- ・誤答については、かなたさんとほのかさんが歩いた道のりが等しいことを表す言葉や数は記述できているが、かなたさんがかかった時間が、ほのかさんがかかった時間よりも短いことを表す言葉や数の記述が不十分な回答が24.5%（県28.5%、全国30.8%）であった。



### 学習指導上の留意点

- ◇ 二つの数量の関係に着目し、場面に応じて速さの比べ方を考察することができるようにする。

場面や目的に応じて、単位時間当たりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べることができるようにすることが重要である。

### 指導のポイント

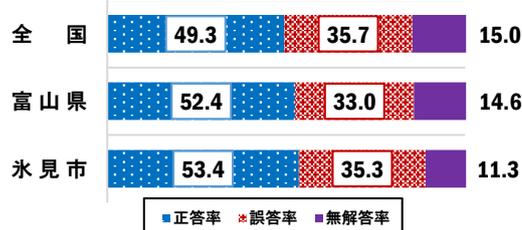
- ・速さの理由について道がまっすぐであることや曲がっていることについて記述した児童が10.6%いた。それらに関係なく、道のりが等しい場合は、かかった時間で速さを比べられることを説明できるようにする。
- ・場面に応じて、速さの比べ方を考察し、その根拠を不足することなく、説明できるようにすることが大切である。

中学校「国語」 問題番号3四 <無解答率が高い問題>  
 学習指導要領における内容：2学年 B書くことウ

問題形式：記述式  
 評価の観点：思考・判断・表現

【出題の趣旨】 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

- ・正答率は53.4%であるが、無解答率は11.3%(全国15.0%)で、今回出題されたものの中で最も高くなっている。
- ・誤答については、書き出しに適切に続くよう、表現を工夫して物語の最後の部分を書くことはできているが、どのような効果があるのかを具体的に説明できない生徒が21.9%(全国26.2%)いた。



学習指導上の留意点

◇ 自分の伝えたいことが伝わるように、表現の効果を考え、工夫して書くことができるようにする。

生徒には自分の伝えたいことが伝わるよう、表現の効果を意識し、工夫して表現する力が十分に身に付いていないことが分かった。用いた語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを確かめながら、より効果的な語句や表現を選ぶことが大切である。

指導のポイント

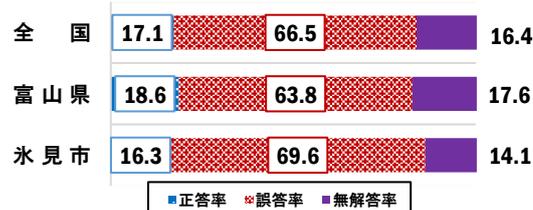
- ・創作した文章を推敲する活動の中で、他者に伝わるものとなっているか、個人で完結させず、互いに読み合い、説明したり確かめ合ったりする学習活動を取り入れるようにする。
- ・生徒が文章を創作する中で、「表現の工夫点」や、「それによる効果」といった観点を示し、生徒に推敲の過程を記録させ、振り返ることができるよう指導する。

中学校「数学」 問題番号8(2) <正答率が低く、無解答率が高い問題>  
 学習指導要領における内容：2学年 C関数(1) イ(イ)

問題形式：記述式  
 評価の観点：思考・判断・表現

【出題の趣旨】 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

- ・正答率は16.3%で、県平均より2.3ポイント、全国平均より0.8ポイント下回っている。また、無解答率は14.1%と高い。
- ・誤答については、値を代入したり、値の差を読み取ったりするなど、どのように活用して使用時間を求めたかを説明することができなかった割合が高い。思考の過程を的確に表現したり、考えたことを数学的な表現を用いて説明したりすることが課題であると考え。



学習指導上の留意点

◇ 問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする。

問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れ、数学を活用する方法を説明できるようにすることが大切である。

指導のポイント

- ・問題解決の方法について、式やグラフをどのように用いればよいかを数学的に説明する活動を取り入れる。
- ・解決の方法として表現が不十分な説明を取り上げて、問題解決の見通しや過程を共有した場面を振り返りながら、判断の根拠を明らかにして十分な説明をしていく活動を取り入れる。

## 学力向上に向けた「具体的実践策」の取組

(「令和6年度全国学力・学習状況調査結果の活用ワークシートより」)

各校では、全国学力・学習状況調査結果を基に特徴や課題等をつかみ、教員の指導方法や児童生徒の学習の改善につなげるために、「具体的実践策」に取り組んでいます。

学校名	「具体的実践策」の取組（一部を抜粋）
朝日丘小	<b>表現する活動</b> ○国語では、条件（字数・内容）を提示して、それに合わせて書く。算数では、図と文を結び付けて読み取ったり、必要な情報を見付けたりする時間を大切にする。
比美乃江小	<b>読む力、情報を整理する力を高める</b> ○それぞれの教科で、子供が資料と文章を結び付けて読み、考えを文章でまとめることができるように指導する。
宮田小	<b>授業改善（国語科・算数科を中心に）</b> ○子供にとって興味深く、必要感のある学習にするために、学習課題を子供と共に考え出したり、解決したくなる学習課題を提示したりするなど、導入を工夫する。
窪小	<b>考えを書く活動</b> ○読み取った文章の要旨や要約を、文字数を制限して書いたり、自分の考えをもって書いたりする活動を意識的に取り入れる。
湖南小	<b>校内研修の充実</b> ○湖南スタンダード（振り返りの視点）を活用し、授業終末の「振り返り」を充実させることで、自身の学びを子供たちが実感できるようにする。
十二町小	<b>対話タイムの設定</b> ○自分の思いや考えを詳しく伝えられるよう、対話タイムでは、話型を生かして理由や根拠を明確にして話したり、順序を工夫したりして話す力を高める。
上庄小	<b>基礎学力</b> ○習った漢字を使って、日記を書く活動を継続して行う。問題の意図を読み取り、考えを書くなど、学年の実態に応じた朝学習を行う。
海峰小	<b>授業づくり</b> ○国語では、語句と語句を線で結び、複数の情報を整理したり、比較したりする活動を取り入れる。算数では、学習したことを日常生活の場面で活用する機会を設ける。
灘浦小	<b>学び合い</b> ○児童主体の対話型の授業に改善していく。ハンドサインや話型を使って表現し、考えを交流する活動を積極的に取り入れていく。
西の杜学園（前期）	<b>ICT活用</b> ○ICT機器の有効的な活用方法を教師自身が研修し、授業に取り入れる。ICT機器を学びの道具として、主体的な学びにつながるような学習を進めていく。
南部中	<b>言語活動の充実</b> ○どの教科においても、学習した用語や表現を用いて自分の思いや考えを文章化する活動や、互いの意見を伝え合いながら学びを深める活動等、言語活動の充実を図る。
北部中	<b>考えて行動する生徒の育成</b> ○家庭学習に結び付く授業の終末を工夫する。学習内容を日常生活の事象と結び付けて捉えさせることにより、自主的な学習に必要な感をもたせる。
十三中	<b>自己調整</b> ○自由進度学習等、個別最適な学びを保障できる機会を授業の中で取り入れ、生徒一人一人が自己調整しながら学習を進められるようにする。
西條中	<b>「分かる」「できる」を実感できる授業の展開</b> ○生徒の生活体験や興味・関心を基に学習課題を選択する機会を設けるなどの導入時における意欲付けと、学習中や学習後にも、生徒の学ぶ意欲を高めるようにする。
西の杜学園（後期）	<b>主体的な学習習慣の確立</b> ○相手に分かりやすいように表現を工夫したり、相手の意見をしっかりと聞いたりするための「話し方・聞き方」を具体的に提示して、学びが深まる手立てを工夫する。

※各校の取組の詳細は、＜小中共同フォルダ＞ → ＜教育総合センター＞ → ＜05-学力向上関係＞に参照用として保存してあります。